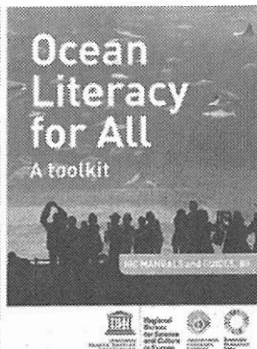




プロジェクトの紙面



ガイドブックの表紙



グループディスカッションのよう



12月4・5日、ユネスコのヴェネツィア支部で開催されたユネスコ・IOC(政府間海洋学委員会)主催「オシャンリテラシー国際会議」に東京海洋大学から佐々木剛准教授が出席した。当会議においては、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け「オシャンリテラシー」を基軸としたグローバルな海洋教育の推進のための協働活動に取り組むことが確認された。また、同大が取り組んできた水圏環境リテラシー教育推進プログラムが、ユネスコの発行したグローバルな海洋教育を推進するためのガイドブック「Ocean

Literacy For All」に先行事例として紹介された。具体的には上記のガイドブックの120ページから122ページにおいて、同大が東日本大震災からの水産業の復興と新たな水産人材育成を目的として、岩手大学および北里大学との3大学連携により取り組んだ三陸水産研究教育拠点形成事業の地域連携教育プロジェクト「閑伊川(へいがわ)サクラマスMANABIプロジェクト」が紹介されている。(左下の写真は、ヴェネツィア支部に集った35カ国の海洋教育専門家)

東京海洋大学 「水圏環境教育 プログラム」が ユネスコ発行のガイドブックで紹介

◆東京外国語大学◆

「アイルランド大使と語り合うタベ」開催



講演するアン・バリントン大使

東京外国語大学は、12月11日、アン・バリントン駐日アイルランド大使を招いて、「アイルランド大使と語り合うタベ」と題した学生に向けた講演会を開催した。同講演会は、

アイルランド―日本外交関係樹立60周年記念事業、及び平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の一環として実施されたもの。

バリントン大使は、アイルランドの魅力、歴史や文化の紹介に加え、政治や経済面でのジェンダー・イクオリティーについてのアイルランドと日本の比較、文化・外交面における日本とアイルランドの関わりなどについて講演した。講演後、学生との質疑応答では、若者の政治参加や外交問題へ取り組む姿勢について、またホットなトピックであるEUとの関係などについて活発な意見交換が交わされた。さらに、女性として、外交官としての大使のキャリアや経験、家族との関わりなどについての質問も多く寄せられ、バリントン大使の経験を踏まえた言葉を直接聞くことができ、学生たちにとって自身のキャリアを考える上で貴重な機会となった。また、同大使は、講演に先立ち、学長室を訪問し、立石博高学長、岩崎稔理事・副学長、鶴田知佳子教授と懇談した。